

『生育早まる 早急の中干しを』

1. 水稻の生育状況(あきたこまち)

前回の調査日以降も気温と日照が高めで推移したことで生育が早まり、「あきたこまち」の葉齢で村内平均は平年並みとなっておりますが、田植えの早い(5/15植え)圃場などは10葉期に入っており、全体的な「**幼穂形成は5日程度早まる**」予想となっております。

また、草丈や茎数からも生育が旺盛となっていることから、早急に中干しを実施し強勢茎の充実と無効茎の抑制を図ってください。他品種も同様の状態となっておりますので、各自の圃場状態を見回り、以下を参考に今後の管理を行なってください。

水稻定点調査圃の生育状況(6月29日)

品種(平均)	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉齢(葉)		SPAD	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
あきたこまち	42.4	41.2	425	387	9.2	9.2	43.9	45.4
(慣行)	41.2		409		8.8		43.3	
(側条ペ-ス等)	43.5		438		9.4		44.4	
前年比	114%		122%		+0.5葉		99%	
平年比	103%		110%		±0.0葉		97%	
たつこもち	48.0	42.7	389	400	9.3	9.0	42.4	45.6
きぬのはだ	41.5	42.6	421	424	9.7	9.4	42.0	42.7
ときめきもち	39.3	39.3	498	397	9.8	8.9	41.4	43.6

2. 今後の技術対応

1) 中干し

田植えの早い圃場や田植時に側条肥料を使用している圃場では、もち品種等で過剰分げつ気味の圃場も見られております。圃場を確認しながら**葉齢9葉を目安に中干し・溝切り**に入ってください。

【中干しの効果】: ①無効茎の抑制 ②根の健全化 ③田面の硬化 等

2) 倒伏対策(出穂25~10日前)

中干し後でも「葉色が濃い」「茎数過剰」等により倒伏が心配される圃場は、つぎの薬剤で対応してください。

ロミカ粒剤1成分 [2~3kg/10a、散布後5日間は湛水状態]

3) 病虫害防除

【葉いもち病】

オリゼメート等の防除をされていない圃場では、7月中旬又は初発時に「コラトップ粒剤」を散布する等の対策をしてください。

【イナゴ】

本年はイナゴの発生が多く見受けられますが、稲の食害が見られる場合は、畦畔沿いを主体につぎの薬剤で防除してください。

トレボン粉剤DL: 3kg/10a、トレボン乳剤: 1000倍~2000倍

※ 圃場でばか苗が見えた場合の抜取りにご協力ください。